

令和6年度 第3回 小金井市立緑中学校 学校運営協議会 議事録

1 開催日時 令和6年10月26日(土) 14:00～15:35

2 場所 本校1階会議室

3 出席者

委員	高橋 秀樹	
委員	中野 利枝子	
委員	八木 尚子	
委員	小林 浩	
委員	後藤 幹芳	
委員	前田 薫平	
委員	塩原 真一	本校校長
委員	蓮沼 喜春	本校副校長
説明員	小川 拓	本校教務主任
説明員	橋本 一彰	本校進路指導主任
説明員	鈴木 史子	本校特別支援コーディネーター
書記	三上 悟	

4 傍聴人数 0名

5 協議内容

① 校長挨拶

- ①本日、緑町大運動会と本校学校公開が重なった。
- ②マイコプラズマ肺炎が流行っている。出席停止の扱い(3/31まで)
- ③文化発表会、これから出る反省を来年度に活かしていく。
- ④先日実施した進路説明会、2, 3学年の保護者も多く参加した。
- ⑤みどり第3学童保育所が11月18日から、本校校舎内に設置される。

② 学校評価(中間まとめ)について

- ①子どもの権利の尊重
 - ・教員の回答は良い方向に向かっているが、生徒の回答に変化がないことに「質問」のマンネリ化を感じる。

- ・明確ないじめはないが、「陰キャ、陽キャ」のようなカテゴライズが態度に現れ、過ごしづらい生徒もいるのではないか。
- ・上記のカテゴライズ化が、成長に対して不健全に感じる。いじめが表面的には見えづらくなっている。
- ・人間関係が現実よりSNSの延長線上に出来上がっているのではないか。
 - 設問を変える必要があるのではないか。
- ・他者への寛容性が弱いのではないか。
- ・1学年で、特別支援への理解教育を行った。
 - もう1歩、踏み込んだ教育があっても良いと思う。
(より具体的に、身近な事象)

②授業変革の推進

- ・タブレット活用の授業、教科の特性もある。
 - 【例】技術…説明などもすべて、タブレットでやっていた。効率化。
- ・手で文字を「書く力」も大事だと思う。
- ・効率化で余裕を作り、伴走的な学習が展開できると良いと思う。
- ・高校で要求されるICTにおける力を中学校までで身につけさせてほしい。

③地域連携の推進

- ・地域にボランティアの場は増えている。
 - どうやって、学校にお願いするかのルートがわからない。
 - 放課後カフェで打ち合わせの場を作ったところ。
 - まずは、管理職、生活指導主任に問い合わせる。
- ・地域の防災の会合に中学生にも参加してほしい。
(生徒会が良いか、そこから間口を広げていければ良いと思う)
- ・行事等で、どんどん地域と連携を取ってほしい。
- ・緑小でCSが主催する懇談会を実施した。できれば、ぜひ緑中でもやりたい。

④特色ある学校づくり

- ・違法薬物ではなく、市販薬などによるオーバードーズが問題としてあがっている。
- ・色々な危険性のあることについて、ハードルが下がっている気がする。
- ・犯罪のリテラシーの差がある。
- ・行事などで、積極的に動く姿勢をみせる生徒は増えてきている。
反面、やる子とやらない子の差がある。
多くの子の活躍できる場を → これこそ地域の活用が必要。
理想は教員が黒子に徹する。
- ・社会構造、働き方の変革により、親のレベルで就労に対する認識が追いついていない状況がある。
- ・就労の仕方も多様化している。
 - キャリア教育で外部から講師を呼ぶのはどうか。
 - 【例】地域で楽しく生活している人を呼ぶ。
 - 三小、緑小で6年生を対象にキャリア教育を行った。

- ・複数（多様な職種）の講師を招いて、ブース形式で実施。
- ・キャリア教育を進める上でも、教員が学ばなければいけないこともある。

3 地域学校協働活動について 協議時間の関係で省略

4 その他

- ・コミュニティ・スクール活動案内パンフレットについて
原案を作成し、教育委員会に提出した。内容の確認が行われているところである。
- ・令和7～8年度学校運営協議会委員について
委員の任期が令和7年3月までであることから、今後第2期の委員をお願いすることとなる。
- ・本校で学童保育所が開設されることについての具体的内容の確認。